

社会科・メディア・リテラシーの学習ユニット

「ニュースキャスターになろう」

市教研・社会科班
明倫小学校 山谷滋

□ユニット名

「ニュースキャスターになろう」

□テーマ

私たちは、特に興味のある事件があった時以外は、特別に意識することもなく、日々のおびただしい数のニュースを見たり聞いたりしている。そして、そのニュース番組で流された「出来事」によって、私たちが直接体験できない世の中をイメージし、疑似体験し、記憶し、「現実を構成」するのである。まさにテレビや新聞のメディアによってつくられた「仮の現実」が、私たちにとっての「現実」に置き換えられていくのである。

しかし、ニュースそのものは「現実」ではない。鏡のように現実を忠実に反映しているものではない。ニュースの資料となる個々の映像と音声は現実のほんの一部分を切り取ったものであり、無数の世界中の「事件」や「できごと」の中からそれが選別され、ある一定の価値観と方針のもとに編集され、再構成されてニュースは出来上がるのである。別な言い方をすれば、ニュースは現実の一つの解釈(バージョン)にすぎないのである。

私たちはテレビニュースを見るときに、このことをどれほど意識しているだろうか。またニュースをつくっている側の制作にかかわる人々も、このことをどれほど明確に意識しているのだろうか。制作側も視聴者も、多くは、日常の流れとして、特に意識することもなくこの現実を受容しているのではないだろうか。

子どもたちは、大人以上にメディアの影響を受けやすい。そんな子どもたちに、世の中にはたくさんの「できごと」があり、ニュースとして報道されるのはその中のごくごく一部にすぎないこと、そして、ニュースは、いくつかの要素によって構成されており、その構成要素によって視聴者は様々な解釈をすることを知り、考えることは、現実を構成している一番近いソースについての認識や、私たちが認知している「世の中」について考え、理解を深める契機となる。

このメディア・リテラシーの学習は1学年の1単元で終わる学習ではなく、全学年で、それぞれの学年に応じた課題が用意されるべきであるし、それによって系統的に学ばれるべき学習内容であることは言うまでもない。

□学年・教科

4年生 社会科関連教材

□目標

- ・日頃から、ニュース等によって社会のできごとに関心をもつ態度を 育てる。
- ・ニュースは現実をそのまま反映しているのではなく、構成されていることを、体験を通して感じる。

□関連教材

5年社会科「私たちの生活と情報」

中単元「放送局の働き」「情報と社会」

小単元・「テレビと生活」「ニュースをつくる」「ニュースを放送する」との関連学習

□授業計画

全3時間

第1次 導入(1時間)

第2次 制作(1時間)

第3次 発表(1時間)本時

□評価

a 意欲・関心・態度

ニュースに関心を持ち、ニュースの作られ方を積極的にしらべようとする。
日常生活の中でニュースに関心をもつことができる。

b 思考・判断

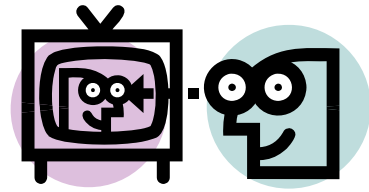
- ・日々放送されているニュースは、どのようなもので構成されているのか考えることができる。
- ・構成要素によって受ける印象の違いを考えることができる。

c 表現・技能

- ・作ったニュース原稿を基に、ニュースを発表することができる。
- ・ニュースを見て、わかったことをまとめ、発表することができる。

d 知識・理解

ニュースの構成要素を知り、それぞれの役割を理解(感じる)することができる。



<授業の構成>

第1次(導入)

□本時の目標

- ・テレビニュースを構成しているものについて考える
- ・テレビニュースに関心を持つ

□学習展開

1、導入

- ・私たちは世の中(社会)のことを何によって知るのだろうか
テレビのニュース

新聞

人に聞く

マンガ

- ・どんなニュースをみている？

2、ニュースの構成要素

- ・テレビのニュースはどんなものでできているのだろうか。

映像、ニュース原稿、アナウンサー(キャスター)の話、BGM、(CM)など
細かく見ると

①アナウンサー(キャスター)

男か女か

年齢

声の質や話し方

②ニュース原稿

内容、コメント

③BGM 明るい曲、こわい曲、悲しい曲など

3、ニュースを見て、ニュース原稿の元になるメモを書いてみる

- ・いつ、どこで、だれが、何を、どうしたのか

4、わかったことは

- ・テレビニュースは映像だけでなく、いろいろなもので構成されている

第2次(制作)

□学習活動の中心

- ・音声のないニュース映像や記事を見て、ニュース原稿を書いたり、BGMを考える。

□本時の目標

- ・ニュース原稿を短時間で話せるようにまとめる。
- ・ニュースのBGMを楽しみながら考える。

□学習展開

1、音声のないニュース映像を見てグループ毎にニュース原稿を考える

- ①ニュースの記事を読む
- ②「ワークシート1」の表をうめる
- ③表を見てニュース原稿を考える
- ④事件の感想を書く(ニュースのコメント)

2、BGMを考える

- ①楽しい曲 ②スリリングな曲 ③悲しい曲 ④静かな曲 ⑤ヒップ・ポップ
- ・5曲の中からBGMを決める。

3、グループ内の役割を決める

- ・キャスター(二人でもよい)
- ・音楽ディレクター
- ・タイムキーパー
- ・ディレクター

第3次(発表と視聴)

1、中心的な学習活動

- ・自分たちが作ったニュースを発表する。
- ・発表されたニュースを視聴し感想を書く。

2、本時の目標

- ・ニュースは構成されていることを体験を通して感じる。
- ・映像以外の構成要素の違いが視聴者にどのような印象の違いを与えるのか考える



3、本時の展開

	学習活動	教師の支援・留意点	評価
導入	<p>本時の進め方を聞き、確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎に、役割に従い発表する。 ・聞き手は構成要素を意識して聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・とりわけ、視聴者として、構成要素を意識して聞けるように意識づけをする。 	
展開 1	<p>◆グループ毎にニュースを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視聴者はニュースを見て感じたことをポストイットに書く 「おそろしい事件だと思った」 「話し方が面白かったのであまりこわい事件だと思わなかった」 「音楽が不気味だったのでこわい事件だと思った」等々。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆発表する学習の側面と、視聴者として考える学習の側面を意識させながら学習を進める。 ・生産・制作の立場 ・オーディエンスの立場 ◆視聴者は発表の仕方を問題にするのではなく、ニュースの印象を書くようにする。 ・「もう少しゆっくり話した方がよかった」とか「もう少し声の大きい方がよかった」とかにならないように留意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割に従いきちんと発表できる。 ・構成要素を意識して見ることができる。 ・感じたことをメモにまとめることができる。
2	<p>◆グループ毎の発表を受けて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレビニュースの構成要素のちがいでによってニュースの印象が変わるのかどうか話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次で学習した構成要素を意識させる。 ①アナウンサー(キャスター) <ul style="list-style-type: none"> 男か女か 声の質や話し方 ②ニュース原稿 <ul style="list-style-type: none"> 内容 コメント ③BGM <ul style="list-style-type: none"> 明るい曲 スリリングな曲 悲しい曲など ・ポストイットを見て児童の感想を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に話し合いに参加できる。 ・要点をまとめてわかりやすく発表できる。 ・構成要素の違いを意識できる。
まとめ	<p>◆今までの学習を通して気がついたことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニュースはいろいろな要素で成り立っていること。 ・構成要素の違いで、受ける印象が変わること 	<p>体験を通して、ニュースはいろいろな要素で構成されたものであると感じるようにする。</p>	<p>学習を通して、ニュースは現実を鏡のように反映しているのではなく、構成されたものであることを感じたり、意識したり出来たか。</p>

<資料編>

◆ニュースの内容

ニュースのだい名

「無事でよかった」

- ・ 9月21日
- ・ アメリカで 146 人を乗せた旅客機の車輪がこわれて、きん急着陸するというトラブルがあった。
- ・ この飛行機はカリフォルニア州バーバンクからニューヨークに向かっていた飛行機である。
- ・ り陸後まもなく車輪がこしょうして真横を向いたまま動かなくなった。そこで、きん急着陸することにした。
- ・ 着陸の時に^{ねんりょう}燃料をたくさん積んでいると火事になる危険があるため、飛行機はおよそ三時間上空をぐるぐる回って燃料タンクを空にした。
- ・ そして、ロサンゼルス国際空港にきん急着陸した。
- ・ タイヤから白いけむりや^{ほのお}炎があがったが、無事止まることが出来た。
- ・ 乗っている人にけがなどはなかった。

◆ニュース原稿(例)

(※普通に、ゆっくり。)

ニュースをお知らせします。

今日、9月21日、アメリカで146人を乗せた旅客機の車輪がこわれて、きん急着陸するという事故がありました。

- ・この飛行機はカリフォルニア州バーバンクからニューヨークに向かっていた飛行機です。り陸後まもなく車輪がこしょうして真横を向いたまま動かなくなりました。そのため、きん急着陸することにしました。
- ・着陸の時に燃料ねんりょうをたくさん積んでいると火事になる危険があるため、飛行機はおよそ三時間上空をぐるぐる回って燃料タンクを空にしました。そして、ロサンゼルス国際空港にきん急着陸しました。

着陸の時にタイヤから白いけむりやけい炎があがりましたが、無事に止まることができました。乗っている人にけがなどはなかったそうです。

◆係りのしごと

1、キャスター

- ・ニュースの原こうをよんだり、ニュースの感想をいったりする。

2、音楽係り

- ・CD デッキから選んだ曲をながす

3、タイムキーパー

- ・10秒前とかの合図をおくる。

4、ディレクター

- ・スタートの合図をしたり、音楽係りに合図をおくったり、全体の進行じょうたいをチェックする。